



～夏期のカンキツ類の管理作業について～

「菊池レモン」をはじめとしたカンキツ類が結実し、小さな実をつけている季節になりました。収穫期に良い果実を収穫するための5～7月の作業のポイントを紹介します。

●新梢やとげの管理

新梢は柔らかいうちに1本に芽かきします。残した枝の樹勢が強い場合には10葉程度で摘心し枝葉の充実を促進させます。果実の肥大により枝が下垂すると、果実に傷がつくだけでなく、樹勢低下の要因になります。地面と接触しないよう枝吊りをします。果実や葉の傷は、かいよう病の原因になります。予防のため、強い枝に発生した長いとげは、できるだけ除去します。



写真1 支柱を利用した枝吊りの例

●灌水および施肥

果実の肥大には、土壤水分が必要です。6月の雨季明け後には、土壤の乾燥に注意し1週間まとまった降雨がない場合には、十分な灌水を行きましょう。



写真2 簡易灌水タイマー

節水と作業都合の両立のため、写真2のような簡易の灌水タイマー(停止機能のみ、1500円程度)の利用も有効です。

5月には夏肥を、成木(7年生以上)で窒素換算10kg/10a程度を目安に施用します。

●病虫害防除

カンキツ類の大敵であるかいよう病は降雨により感染が広がります。雨季の晴れ間にボルドー剤を散布し、予防を心がけます。

一方、晴天が続くとダニ類が発生します。特にサビダニ類は蔓延後の根絶は難しく、品質低下を招くため、薬剤散布が必要です。6月下旬までにマシン油乳剤97%(150～200倍)を涼しい時間帯に散布しましょう。



写真3

(左)リュウキュウミカンサビダニ被害果
(右)白い粉状に見える発生初期のダニ

●果実の管理

着果が安定している樹齢の木は、摘果の必要はありません。外観品質の著しく悪いもののみ摘果します。また、日焼けや葉の接触による着色不良にも留意しましょう。

<カンキツ担当：田邊>

～令和2年度試験成績概要～

1. カンキツ類の小笠原における生育特性

●施設栽培「菊池レモン」の除葉による着色不良回避方法の検討

施設栽培「菊池レモン」において、葉のかぶさりによる着色不良を回避するため果実直上の1枚を除葉すると、着色は良好になります。また、果実の肥大及び品質への影響はみられませんでした。（田邊）

●「菊池レモン」貯蔵果実の緑色保持を目的とした低温輸送時の個包装資材の検討

長期貯蔵後の果実を個包装し低温輸送すると、微細孔フィルムが最も緑色保持率が高くなります。内地到着後7日間の緑色果の割合は貯蔵2ヵ月後で6割、貯蔵3ヵ月後で4割になりました。（田邊）

2. 新たな資材活用による栽培技術の開発

●パッションフルーツにおけるミスト冷房による日焼け被害抑制効果について

本試験のミスト資材を用いた場合、果実の汚れの発生が少ない噴霧条件では施設内温度は低下せず、日焼け果を抑制することはできませんでした。（飯塚）

●水溶性肥料の多頻度少量施用がパッションフルーツの収量・品質に与える影響

液肥混入器を用いて水溶性肥料を灌水時に溶かし、追肥を多頻度少量施用した場合、肥料を固形のまま約2週間間隔で施用した場合より開花数と収穫果数、収量が増加しました。果実重に差はありません。（飯塚）

3. その他特産果樹における新たな可能性

●用土量を変えた根域制限におけるマンゴーの生育比較（定植6年目）

根域制限栽培において、土量200Lと120Lとで栽培した場合を比較すると、定植6年目（収穫4年目）には生育や合計収量に差はみられませんでした。（北山）

●小笠原におけるレイシの生育特性の解明（収穫2年目）

小笠原諸島では、収穫2年目ではギョッカホウとクロバは収穫できず、単為結果性のジャカパットは収穫に至ります。1果重は小さいものの、糖度は高くなりました。（北山）

4. アフリカマイマイ被害回避手法の検討

●父島および母島におけるアフリカマイマイの分布（第15回全島調査結果）

前回の調査と比べ、生息地点は父島で2地点、母島で3地点減少しましたが、特定の地域での減少傾向は認められませんでした。産卵率は母島で特に上昇し17.7%となり、今後の密度推移に注意が必要です。（飯塚）

●銅資材による固有陸産貝類忌避性アフリカマイマイトラップの開発

銅幅3cmではアフリカマイマイの室内試験での誘引率は73.3%、カタマイマイ類の代替としたミヤコマイマイは銅幅3cm以上では0～5.6%でした。屋外試験でミヤコマイマイの誘引は認められませんでした。トラップの銅幅は3cmが有望でした。（飯塚）

今年度の農業者セミナーの開催について

今年度の農業者セミナーは、2回程度開講予定です。初回は野菜情報をテーマに計画中です。また、皆様に役立つセミナーとするため、その他テーマについてはリクエストをいただき検討したいと考えております。ご要望テーマがありましたら、農業センター及び営農研修所までご意見をお寄せください。各回の詳細は決まり次第、「村民だより」等でお知らせ致します。

5. 世界自然遺産登録地に適した侵入病害虫等の管理技術の検討

●小笠原におけるマンゴーに寄生するルビローウムシの発生消長

小笠原のマンゴーではルビローウムシが年2回発生し、1 齢後期～2 齢前期幼虫の発生開始時期は5月下旬と9月上旬でした。発生が認められた後、3～4週間は増加傾向となります。防除適期は6月上中旬と9月下旬～10月上旬と考えられます。（飯塚）

6. 野菜・果樹・花き・切り葉類の生産性向上

●株間へのダクト送風によるミニトマトの裂果防止効果の検討

株間へのダクト送風により、裂果率が約11%減少しました。特に、12月～2月にかけての低温期に裂果防止効果が高い傾向がみられました。（五十嵐）

●ミニトマトの省力的な誘引整枝法の検討

Qターン誘引栽培は、慣行栽培と比較して約2割収量が減少しますが、誘引作業時間は5分の1でした。吊り下げ斜め誘引栽培では、誘引作業時間が増加しました。（五十嵐）

●オクラの有望品種の特性把握

オクラ7品種のうち「ヘルシエ」の収量が最も多くなりました。外見、食味は八丈系統（慣行）の評価が最も高く、用途に応じて品種を選択するとよいでしょう。（五十嵐）

●シカクマメの有望品種の特性把握

シカクマメ5品種のうち、「シカクマメ（榊サカタのタネ）」の収量が優れていました。また、収穫莢の外見や食味の評価に大きな違いはみられませんでした。（五十嵐）

●パッションフルーツのマルチ栽培による節水効果の検証

農業用水を効率的に利用するため、パッションフルーツのマルチ栽培を試みたところ、約2割の節水効果がみとめられました。また、収穫時期を早める効果や果実品質を高める効果がみられました。（五十嵐）

●外来カタツムリ「アジアベッコウ」の農作物に対する食性調査及び農薬による防除効果の検討

近年、小笠原村母島で分布域を拡大している外来カタツムリ「アジアベッコウ」は、野菜苗5科6品目を摂食したことから、農業被害を起こす可能性があります。メタアルデヒド水和剤は本種に対して優れた防除効果がありました。（近藤）

土壌診断

効率の良い土作りのため、土の定期診断を受けましょう。野菜では次作の畑の準備をする前、果樹では収穫が終わって施肥をする前がチャンスです。

一握り程度の土を採り、ゴミやホコリ等を取り除き、よく乾かして、できれば目合い5mm程度のフルイを通して、紙封筒（提出場所で配布）に入れて、お名前、連絡先、畑の場所等を記入して下記の期間中に提出して下さい。

★提出先 父島は農協父島支店、母島は農協母島店です。

	土壌試料受付期間	診断結果のお知らせ
第1回	6月14日（月）～6月25日（金）	7月中旬
第2回	7月26日（月）～8月6日（金）	8月下旬

～ 着任職員の紹介 ～

えんどう たくや
遠藤 拓弥 研究員



今年度より異動して参りました遠藤と申します。以前は、農林総合研究センターで野菜の研究員として江戸東京野菜（馬込半白キュウリ、金町コカブ）や学校給食用の野菜（タマネギ）などの研究をしておりました。今回は病害虫を主に担当することになりました。今までの経験を活かして小笠原の農業に貢献できるように精一杯頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

おのてら ひろふみ
小野寺 洋史 営農研所長



このたび、中央農業改良普及センターから営農研修所に異動して参りました小野寺と申します。以前の職場では、普及員として三鷹市、武蔵野市、狛江市を担当し、主に野菜や果樹の栽培指導を行っていました。初めての島しょ地域勤務であり、赴任地が小笠原であることを嬉しく思っております。小笠原の農業に関する現状を学び、農業振興に尽力いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

担当の紹介

令和3年度の農業センターの分担が決まりましたのでお知らせいたします。所長の吉原は全体の総括。田邊は果樹主担当でカンキツ類を担当します。遠藤は病害虫主担当で、他にマンゴー・レイシを担当します。北山はパッションフルーツを担当し、自生種主担当で、他に当ニュースの編集も担当します。ご質問やご要望は各担当者が承りますのでよろしくお願い致します。

帰任職員

令和3年4月1日付けで研究員の飯塚は農林総合研究センター（立川市）へ異動となりました。また、営農研所長の近藤は本庁農林水産部（新宿区）へ異動となりました。長い間お世話になりました。

農業センターニュースや試験成績概要は小笠原亜熱帯農業センターのホームページにも掲載しております。

検索

小笠原支庁 → 小笠原亜熱帯農業センター → 農業センターニュース・試験研究成果概要

<https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/O7ogasawara/farm/>